

令和2年度

予算

のお知らせ

令和2年2月17日に開催された組合会において、令和2年度の予算が可決・承認されましたので、以下、その概要についてご説明いたします。

令和2年度 一般勘定予算の概要

- ① 被保険者数は前期比1、163人減の62、349人、平均標準報酬月額と同2、487円減の43万1、982円、総標準賞与額は同9億41百万円増の969億63百万円を見込みました。
- ② 一般保険料収入は、被保険者数の減少を主因に前期比5億4百万円減の320億44百万円を計上しました。経常収入全体では、同5億18百万円減の320億92百万円としました。
- ③ 一方、経常支出において、保険給付費は1人当たりの給付費の増加による前期比2億49百万円増と被保険者数の減少による同3億74百万円減を合わせ、同1億25百万円減の189億23百万円としました。また、納付金（高齢者医療制度支援のための負担金）は、被保険者数の減少による総報酬額の減少で後期高齢者支援金が同3億46百万円減となることを主因に、同3億40百万円減の113億70百万円を見込みました。健診事業などに充てる保健事業費は、消費増税や特定保健指導等の増加要因に対し、被保険者数の減少や売却した仙石保養所の消費税分の剥落、データヘルス事業の見直し等が主な減少要因となり、同11百万円減の19億32百万円を計上しました。経常支出全体では、同

- ④ 4億76百万円減の325億55百万円としました。この結果、経常収支差引額は前期比42百万円減少し、4億63百万円の赤字となる見込みです。
- ⑤ 経常外収支では、保険給付等の予想外の増加を見込み、予備費を16億67百万円計上しています。
- ⑥ 最終的に、経常収支と経常外収支の合計額である16億円の不足は、同額別途積立金から繰り入れて、収支バランスをとりました。
- ⑦ 以上のとおり、令和2年度の経常収支差引額は赤字を見込んでいますが、これは平成29年度以来4期連続の赤字計上ということになります。健保組合を取り巻く環境は、依然として高齢者医療制度への過重な納付金負担や医療費の増加などによる厳しい財政状況が続いており、団塊の世代が75歳に到達し始める2022年からは高齢者医療費が急増し、それに伴い現役世代の納付金負担はさらに増大することが見込まれています。健保組合としましては、保険給付の適正化や、今期3年目を迎えた第二期データヘルス計画に基づく健診・保健事業の効果的・効率的運営をはじめ、財政健全化へ向けた取り組みをさらに強化してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和2年度 介護勘定予算の概要

厚生労働省から毎年示達される介護納付金（※）は、前期比1億93百万円増の40億57百万円となりま

した。この納付金額に見合う収入を確保するため、令和2年度の介護保険料率は、前年度から2%引き上げた17%としました。

（※）従来、加入者割で計算されていた介護納付金は、段階的に総報酬割が導入され、本年度から全面総報酬割となりました。

無駄のない適切な受診を心がけましょう

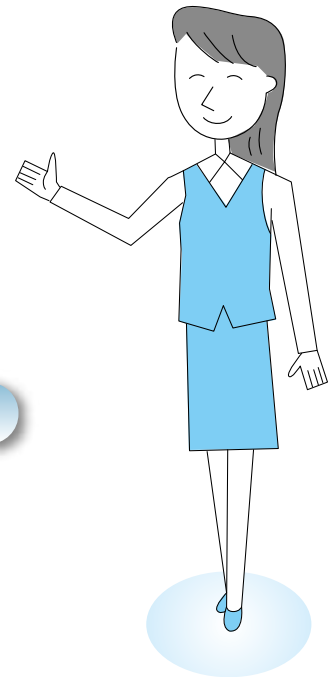
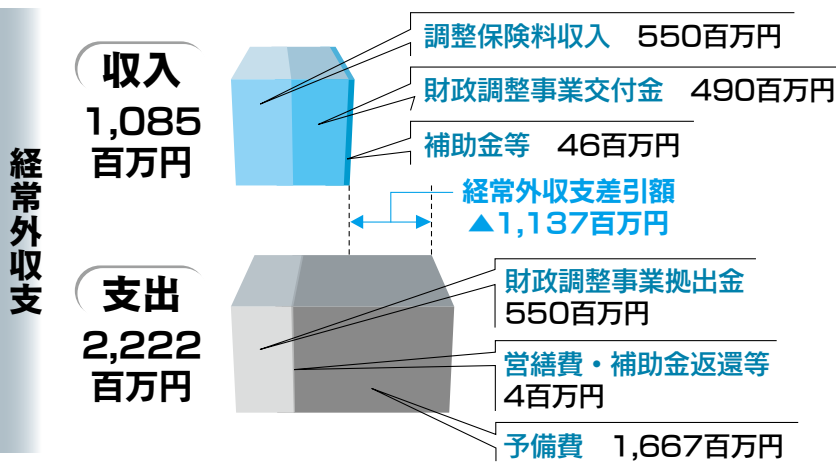
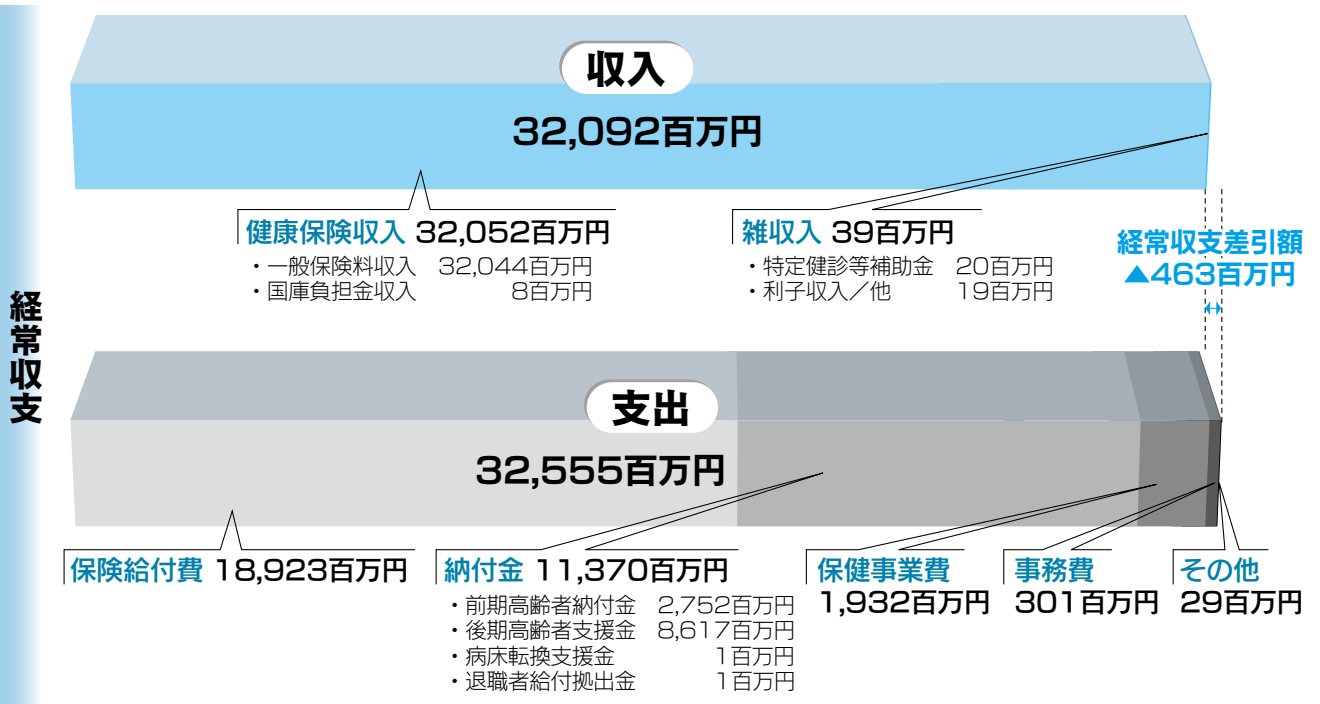
- 健康管理を心がけ、生活習慣を改善し、健康づくりに取り組みましょう。
- ジェネリック医薬品を活用しましょう。
- 重複受診（同じ病気で、複数の医療機関等に受診）は避けましょう。
- 休日・夜間・早朝の時間外診療などは、緊急のやむを得ない場合に限りましょう。
- 接骨院等で施術を受けるときは、単なる肩こりや筋肉疲労に健康保険は使えません。

医療費節減のご協力をお願いいたします

健保組合を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。限られた健康保険料を効果的・効率的に保険の給付や、健康増進・疾病予防のための健診事業等に充てるため、引き続き、医療費節減のご協力をお願いいたします。

一般勘定

令和2年度収入支出予算



介護勘定

令和2年度収入支出予算

